

果の力集の人は人道を世視しては王家海運の根柢
を破却せんとするより先に對し是れ漸中と云ふ對を聲
以せんとするより先は。在東の積嶽船に於て馬三十
萬噸の老朽船を加へ、而かも白船則といはれ船齡十五
ヶ年以内の船舶に定期検査を省果、以て修補加工の
費用も支あせざらんとす。是等は僅弱廢朽の洋上
浮揚物半ばかりして益々之を危險性を増大せしむるべく
所謂理由不承の靴破取片更に益々其の数を加へる
ものなり。

善後船舶の使用に堪へ得る期有るを二十年前を至るに
年と認めらるは一般に行け小ある也。而かも三十年以内の
於て定期検査を省果するとせば事實の上にて
船舶も定期検査を陸却せんとするものなりとせり

世運等放擲つゝ堪へ難くありとす。既にかゝる如きは
いへる日本海運の信用も運力も此の情に
於て創成滿身の如き馬に鞭を如くせしむるは東洋
の幸而朝歌の優勝す。まご甘菜もよく言ふも短ひ
ざるべし。 被近亦も造船界の健全に伴ひ其の信用
は漸々衰ゆるべし。況んや、外部を洗拂はせしる官廳
及保險会社の類が皆、日本の船舶の權威を肯定
せんとする。横濱に際會し、今日日本官廳の在東行
ひつゝある、或るは必承である。船停定期検査が一朝
これを徹度と小、不徹度とある。制限の姑息の利度と使
つらくなりとせしかば、必然的停業する力のほから由港情
に於ける日本船舶の安全性に對する信用の失墜する
べく、以て外に港務間に於ける貨客運送の上を重索